

## プレスリリース

平成 16 年 3 月 26 日  
水産庁

### 2003 / 2004 年南氷洋鯨類捕獲調査船団の入港について

#### 1. 調査船団の入港について

本年度の南氷洋鯨類捕獲調査(石川<sup>いしかわ</sup>創<sup>はじめ</sup> 調査団長(財団法人日本鯨類研究所)、  
鉢嶺<sup>はちみねあきら</sup>朗<sup>あきら</sup> 監督官(水産庁))に従事する調査母船「日新丸」、目視採集船「第二  
勇新丸」、「勇新丸」、「第一京丸」及び目視専門船「第二共新丸」は、以下  
により入港する予定である。

(1) 調査母船： 日新丸 (遠山<sup>とよまだいすけ</sup>大介船長以下 127 名)  
目視専門船： 第二共新丸 (南<sup>みな</sup>浄<sup>みき</sup>邦<sup>よくに</sup>船長以下 17 名)  
平成 16 年 3 月 31 日(水)北海道函館市函館港  
入港 午前 7 : 30 (日新丸) 8 : 00 (第二共新丸)  
入港式 午前 11 : 00 ~

(2) 目視採集船： 第二勇新丸 (亀井<sup>かめいひではる</sup>秀春船長以下 17 名)  
平成 16 年 3 月 29 日(月)広島県因島市田熊町田熊港  
入港 午前 8 : 30 入港式 午前 10 : 00 ~

(3) 目視採集船： 第一京丸 (廣瀬<sup>ひろせきよし</sup>喜代治船長以下 20 名)  
勇新丸 (松阪<sup>まつさかきよし</sup>潔船長以下 17 名)  
平成 16 年 3 月 29 日(月)山口県下関市下関港  
入港 午前 9 : 00 入港式 午前 10 : 00 ~

#### 2. 調査の概要

- (1) 出港日時：平成 15 年 11 月 7 日(金)山口県下関港出港
- (2) 調査海域：南氷洋第 区東側(東経 35 度~東経 70 度)及び  
第 区(東経 70 度~東経 130 度)
- (3) 捕獲頭数：ミンク鯨 440 頭
- (4) 実施機関：財団法人日本鯨類研究所

( 5 ) 本年の調査の成果

- ・ 本年度における南極海ミンククジラの発見は 1,195 群 3,639 頭で、主に区東側及び 区西側のパックアイス際で発見された。
- ・ 今回の調査では、ザトウクジラの発見数の顕著な増加が見られ、前回の第 区調査を大きく上回る 1,795 群 3,341 頭が発見された。この群れの数は、ミンククジラの発見群数を上回るもので、JARPA 開始以来の初めての結果である。
- ・ 採集されたミンククジラからは 1 頭当たり 100 項目に上るデータが収集されており、これらは分析され IWC 科学委員会に提出されることとなっている。
- ・ 今次調査では採集調査活動の他に、シロナガスクジラ、ザトウクジラといった大型ヒゲクジラの個体識別用写真撮影や、バイオプシー標本採取、衛星標識の装着等の目視以外の非致命的調査も積極的に行った。また、計量魚探や深度水温塩分記録計、表層生物環境モニタリングシステムなどの観測機器類を用いた海洋環境調査も同時に行った。
- ・ なお、本年度の調査については、過激反捕鯨団体による妨害もなく、滞りなく遂行された。

( 参考 ) 鯨類捕獲調査の法的科学的根拠 :

南氷洋鯨類捕獲調査は、国際捕鯨委員会 ( IWC ) を設置した国際捕鯨取締条約第 8 条に基づき実施されている調査であり、1987/88 年に開始以来、今回の調査が 17 回目の調査となっている。また、本鯨類捕獲調査は、南氷洋におけるミンク鯨を主とする鯨類に関する生物学的及び資源的データの収集、鯨類を中心とする南氷洋の環境及び生態系の解明を目的に実施しているもので、その調査結果は IWC 科学委員会において高い評価を受けており、国際法上正当な科学調査である。

連絡先

水産庁遠洋課 森下、長友、中塚

代表電話 : 03 - 3502 - 8111 内線 7243

直通電話 : 03 - 3502 - 2443